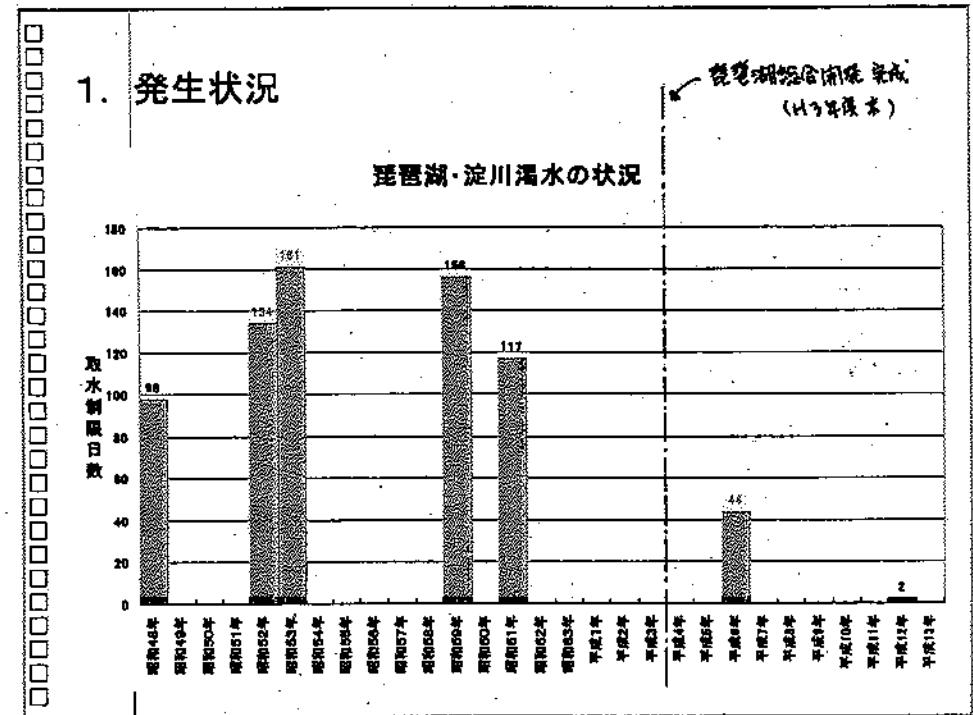


琵琶湖総合開発と渇水

- “琵琶湖・淀川流域では4年に1回程度の割合で相次いで渇水に見舞われており...”
 (近畿地方整備局)

- そうでしょうか？

「琵琶湖総合開発」の以前と以後では全く様子が違ってきます



「平成6年渇水」も被害は軽微だった

- H6年は記録的な渇水

年間降雨量 琵琶湖 1207mm
 大阪 744mm
 気温 大阪 39.1℃
 琵琶湖水位 BSL-123cm

(いずれも観測史上ワースト記録)

- しかし「琵琶湖総合開発」により被害は軽微。
 大阪・阪神地域を含め、「断水」はどこにも起きなかった。

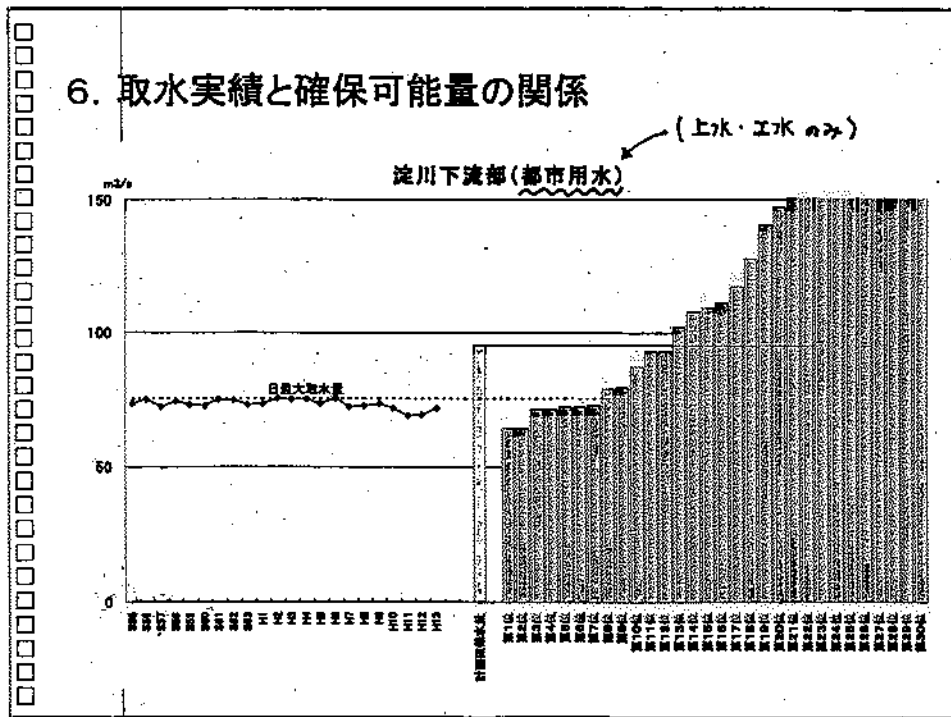
2. 渇水被害状況		
琵琶湖・淀川流域における渇水被害の実績(2)		
発生期間	被害市町村*	取水制限等の状況
H6.8.22 ~ H6.10.4	大阪府:32市7町1村 兵庫県:5市	取水制限:上水最大20%・工水最大20% (42日間) Q時間断水などの大きな被害はなかったものの、一部地域で減圧給水、プールの閉鎖が実施された。 ・琵琶湖水位は史上最低の-1.23mを記録した。 * 滋賀県でも初めての取水制限を実施した。 * 木津川流域の三重県、奈良県でも取水制限を実施。
H12.9.9 ~ H12.9.11	大阪府:33市8町1村 兵庫県:5市	取水制限:上水10%・工水10% (3日間) ・特に大きな被害はなかった。 * 滋賀県では上記半分の5%の取水制限を実施した。

※ 被害市町村については、三川合流点下流にてとりまとめました。

湧水については 「農水」も含めた検討が必要

- 近畿地方整備局は「都市用水」(上水・工水)だけで検討している!

- 淀川の「農水」は余っている
(農地の宅地化・減反)



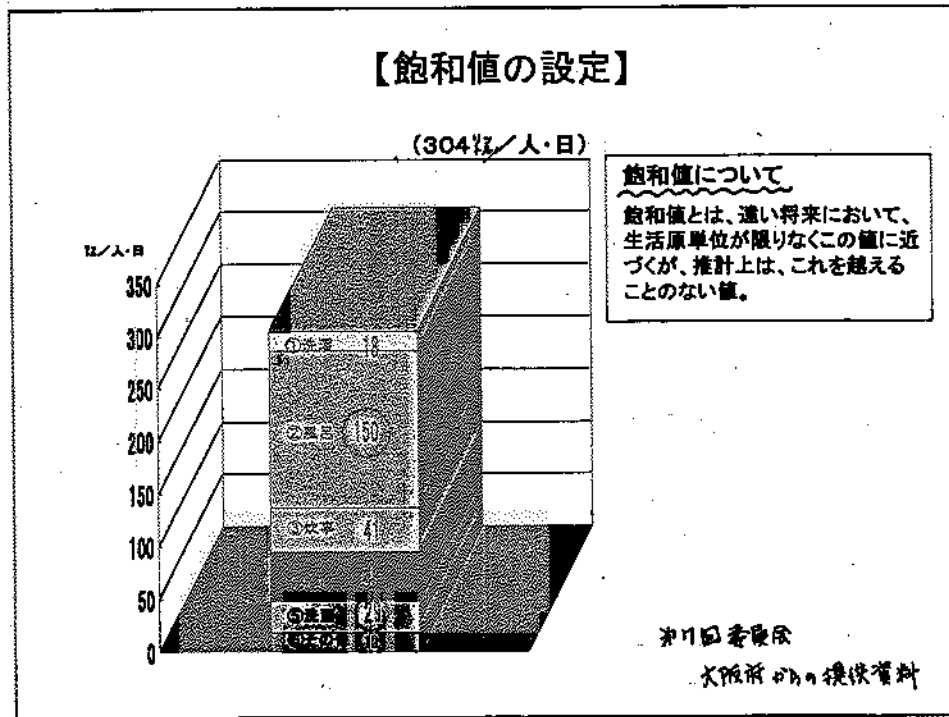
淀川の水利権 (万 m^3 /日)			
	(水利権)	最大 取水量	(未使用)
(総計)	1007	724	282
(上水計)	648	532	117
大阪府	223	204	19
大阪市	268	197	70
守口市	6	6	0
枚方市	13	13	0
寝屋川市	1	1	0
吹田市	3	3	0
西宮市	1	1	0
阪神水道	119	95	25
尼崎市	9	6	2
伊丹市	5	5	0
(工業用水計)	213	113	100
大阪府	84	52	32
大阪市	31	15	16
大阪臨海	16	7	9
神戸市	11	8	3
尼崎市	26	16	10
西宮市	5	4	1
伊丹市	4	4	1
私企業	36	6	30
農業用水計	145	80	(65)

(注)建設省のデータなどをもとに作成。上、工水の取水量は97年度、農業用水は98年度で、コンマ以下は四捨五入。

水利権の45%が未使用。

(1999年10月17日付
朝日新聞 21)

(大阪府営水道) 過大な飽和値の設定



「飽和値304L」の設定根拠

- 1、大阪府民は将来、全員が毎日風呂に入り、注水70L、洗い80L、計150Lの水を使う
- 2、大阪府民は将来、全員が毎日
 - ・洗顔に20L(洗面器10杯)
 - ・手洗に 9L(洗面器4.5杯)
 計29Lの水を「洗面」に使う
- 3、大阪府では将来、一世帯当たり人員が
 - 2.06人まで低下し、「洗濯・風呂・洗車」などの世帯共用部分が「一人当たり使用量」を押し上げる
 - ・現況 2.68人
 - ・「人口問題研究所」予測では H32年度において

大阪府(大阪市含む)	2.30人
東京都	2.06人

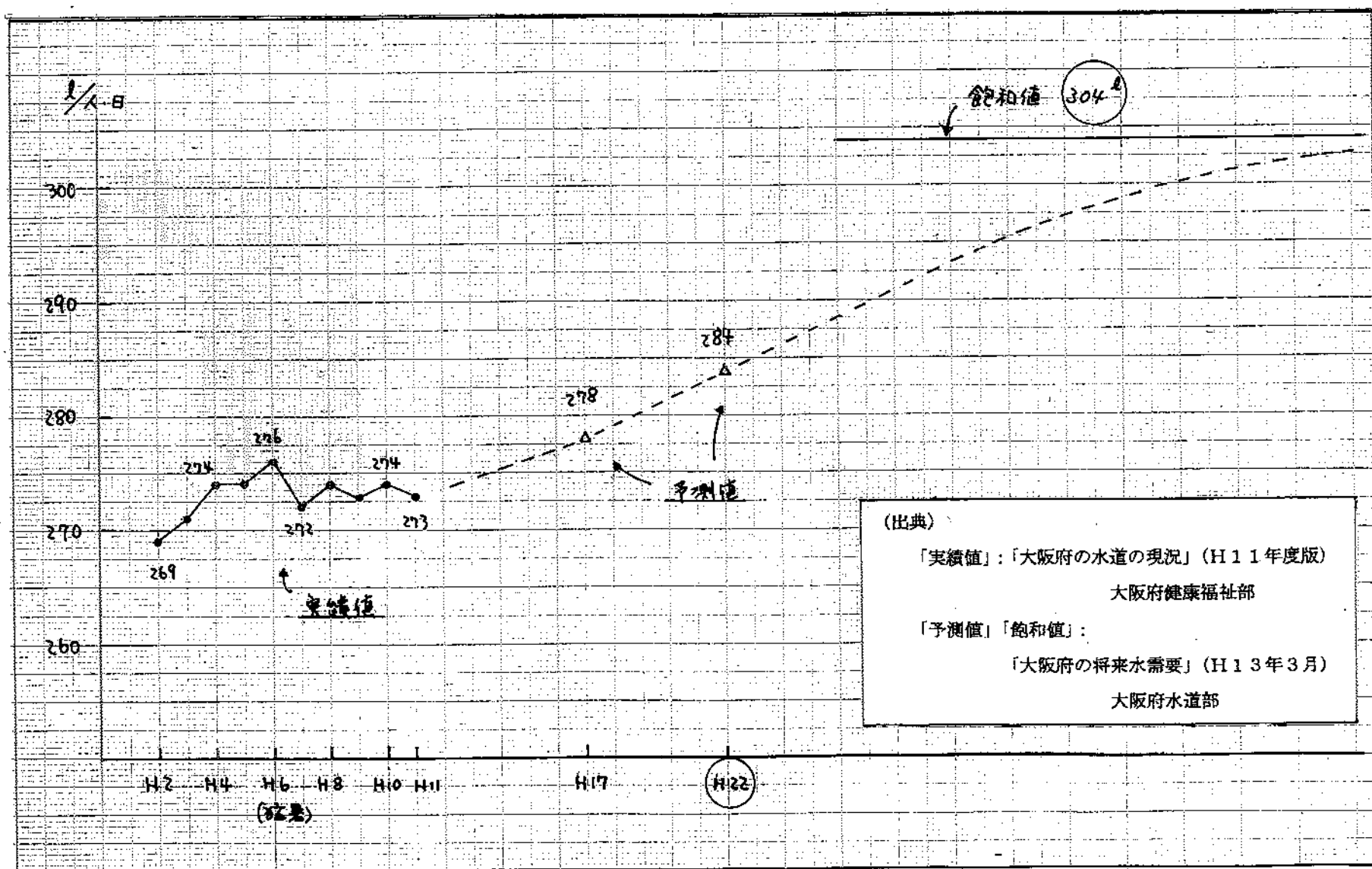
(飽和値の効果)

飽和値を20L 低く設定すれば

→水需要量は 16万m³下がる

(大阪府営水道) 生活用水原単位の実績値・予測値・飽和値

(原単位: 家庭での生活水の一人一日平均給水量)



(大阪府営水道)
人口減少による水需要の減少

- 大阪府自らの予測でも
H22年以降は人口急減

大阪府全域の人口予測
H22年 879万人
H37年 831万人 (-48万人)

大阪府営水道給水エリア(大阪府域)も同率
で減少するとすれば

H22年 624万人
H37年 590万人

その後も同様に減少すると見ると、今から
約30年後の

H42年には574万人(-50万人)

今から30年先には大阪府域の人口は
50万人減!

- 水需要はいくら減るのか?

大阪府水道部の予測では
H22年の「一人一日最大給水量」を494Lと
しているから

$50万人 \times 494L = 247,000m^3$
(約25万m³)

同部の水需要予測はH22年に焦点を当て
ており、仮にこの予測が正しいとしても、
僅かその20年後には25万m³の水余りを
招来する。これは

丹生ダム 21.4万m³
大戸川ダム 3.5万m³
(計) 24.9万m³

この二つのダムへの参画が無用となること
に等しい